

先生お薦めの一冊

『なるほどデザイン 目で見て楽しむデザインの本』

筒井 美希 著 (エムディエヌコーポレーション)

芸術科 美術 内 ゆき 先生

「デザイン=楽しい」を実感できる新しいデザイン書籍。デザインをする上で必要な基礎・概念・ルール・プロセスを、図解やイラスト、写真などを使って解説しています。

現場で活躍しているデザイナーが身近にあるわかりやすいものに例えたり、図解、イラスト、別のものに置き換えて見方を変えてみたり・・・視覚に訴える資料でわかりやすくひも解いた、楽しみながらデザインのあれこれがわかる「なるほど!」と思える内容が盛りだくさんです!

この本は、本校図書館でも所蔵されています。2015年の夏に販売されている同作品ですが、私が出会ったのはちょうど2年前。前任校の図書館を散策している時に見つけて「何これ!」と気になって手に取りました。気楽な感じで椅子に腰掛けて読み始めたのですが、その内容や構成の面白さに正に「なるほど!」と頷きながら、気づけば次々にページを捲っていました。適度に心をくすぐられるこの感覚は、読んだ人しか味わえないので!ぜひ一度は目を通してもらいたいお薦めの一冊です。楽しみながらサクサク読み進めることができます。

この本が気になった人は図書館へ足を運んでみてください。「誰に・何を・なぜ・どうやって伝えたいのか」によって生まれるデザインの違いを覗いてみませんか?



12月の貸出統計

1年233冊 2年77冊 3年57冊 合計367冊

学年 組	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	22	16	21	48	36	28	34	28	0	5	6	10	27	9	14	6	0	0	0	1	44	1	10	1
合計	233冊								77冊								57冊							



～書くための読書～

- *これから小論文関係の図書の貸し出しが増えてきます。多くの人に利用してもらうためにも、返却日は必ず守りましょう。
- *図書館には看護関係や教育関係を中心に切り抜きの冊子があります。冊子は貸出禁止ですが、翌日返却の特別貸出は可能です。(特別貸出は司書まで!)
- ***新書本**や**ブックレット**が小論文資料の中心ですが、**白書**も大切な資料です。白書とは政府が政治、経済、外交などの実情や施策を国民に知らせる報告書(参照:現代国語例解辞典 小学館)です。農林水産業や社会学の分野では、貴重な資料となります。図表を読み解く力もつきます。ぜひ小論文を書くための引き出しに白書も加えてください。今年度分の白書は貸出禁止ですが、前年度までの白書は貸出可能です。(白書を借りる時は司書まで!)

いろいろな角度から

西郷隆盛を読む！



NHK大河ドラマ「西郷どん」が、スタートしました。観光に力を入れている鹿児島にとって、今年は飛躍の年になりそうです。本校周辺の石碑が語るように、加治屋町は明治維新の立役者を数多く輩出した地です。つまり、鹿児島観光の中心となる地でもあります。観光客のどんな質問にもすらすら答えられるように、今から西郷さん関連の本を読んで予習しておきましょう。

『西郷どん』(前・後編) 林真理子 著 (角川書店)

人々が幸せになるために働いた西郷隆盛。島津斉彬や篤姫、志を共にする仲間を通して成長する西郷。明治維新へと向かう時代に西郷は何を感じ、何を思い行動したのだろうか。西郷にとっての幸せとは・・・。

『西郷隆盛』池波正太郎 著 (新人物往来社)

西郷の足取りを克明に追った伝記小説。西郷を通して書かれた維新小説ともいえる。人情味溢れる時代小説を得意とする池波。池波が描く西郷は優しい。

『巨眼の男 西郷隆盛』(全3巻) 津本陽 著 (新潮社)

新旧の資料から巨人の肉声を伝え、その実像に迫る歴史大作。国を追われ、南海の孤島を転々とする西郷が、天下の激変は西郷を必要としていた・・・。

『翔ぶが如く』(全10巻) 司馬遼太郎 著 (文芸春秋)

1990年NHK大河ドラマの原作。西郷と大久保、二人の友情と対立を、征韓論から西南戦争の激動の時代の中で描いた長編小説。司馬遼太郎の西郷と林真理子の西郷、比べて読むのも面白い。

『西郷と大久保』海音寺潮五郎 著 (新潮社)

熱誠の男・西郷、智謀の男・大久保。同じ憂国の思いから征韓論で対立する二人。激動に時代を生き抜いた薩摩の男達に敬愛の思いを込めて描いた力作。

『大獄 西郷青嵐賦』葉室麟 著 (文芸春秋)

ひとはこの世に何かをなそうと生まれてくる。どんな小さなことでもおのれがなさねばならんことが必ずある・・・。維新前夜までの西郷を描いた静かな小説。

平成29年12月25日(月) 日本経済新聞

18歳プラス 池上彰の大岡山通信

「若者たちへ 異文化理解し共存の道を」 より抜粋

質問 池上先生のように多くのテーマを考え、話せるようになるには、世界の動きに対してどのようにアンテナをはるべきでしょうか。

池上教授 君は高校生だね。いまは学業に専念して、知識を身につける努力をしてください。余力があれば、教養の基礎になるホメロスやシェークスピアのような古典をしっかり学んでおくことです。大人になって学んだことが花開きます。国際情勢などにアンテナを張って、関心を高めていくのは、大人になってからで十分です。

歴史を知る大きな目的の一つは、国や人々の過去の判断、行動を知り、人間の愚かさや賢さについて考え直すことです。

これからは、言語や文化、価値観の異なる他者を知り、新たな共存関係を築いていかねばなりません。明日の世界は若い君たちに託されています。その力を蓄えるために、教養を身につけ、自分の頭で考えぬく力を鍛える「リベラルアーツ教育」が重みを増します。

編集後記

3年生の皆さんは特別授業も始まり、いよいよ志望校への挑戦がはじまりました。力を出し切ってください！お忙しいなか原稿をお書きくださった内先生、ありがとうございました。身の回りにあるモノのデザインが気になってきました。***インフルエンザなんかには負けないぞ！ キバレ53期生！！

